

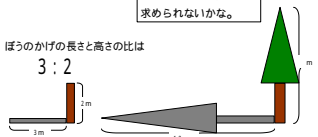


<p>単元(教材)名</p>	<p>比(6年)</p>	
<p>学習目標</p>	<p>日常生活における問題を解くことを通して、比の性質を活用すればよいことに気づき、計算によって正しく求めることができる。</p>	
<p>メディア活用の意義</p>	<p>《コンテンツの概要》 本事例で使用したのは、問題場面を視覚的にとらえやすくする為に作成したソフトです。フリーソフトの「powerpoint Viewer」を用いれば、どのパソコンでも使用でき、簡単な操作で、何度でも繰り返し提示することができる。 《使用目的》 実物とかげとの関係から、比の性質を活用すれば解決することができる問題場面をイメージしやすくなる。</p>	
<p>学習内容・活動の実際</p>		
<p>問題提示をする。</p> <p>木の高さは何mでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に木の高さを求めるのは、大変だ。 実際に測定しなくても求められる方法はないか。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>1</p> <p>[問題]この木の高さは何mでしょう。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>2</p> <p>[問題]この木の高さは何mでしょう。 木の高さを、実際に測定するのは大変でも、木のかげの長さをはかると...</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>3</p> <p>高さ1mのぼうのかげの長さは... 高さを求めたい木のかげの長さは...</p> <p>比を使って木の高さを求められないかな。</p> <p>ぼうのかげの長さの比は 3:2</p>  </div> </div>	<p>評価と指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題場面をイメージしやすいように実物と、かげの関係を動画で提示する。 	<p>メディア利用と環境</p>
<p>比を使って木の高さを求めよう。</p> <p>課題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼうのかげの長さとおうの高さの比は、3:2 木の高さを m とすると、木のかげの長さとおうの高さとの比は、12: $\begin{array}{ccc} \begin{array}{c} \times \\ \downarrow \\ 3:2 = 12: \\ \uparrow \\ \times \end{array} & & \begin{array}{c} 12 \div 3 = 4 \\ = 2 \times 4 \\ \underline{8\text{ m}} \end{array} \end{array}$ <p>・横浜市ランドマークの高さは約300mであることから、かげの長さを求める。</p> $\begin{array}{ccc} \begin{array}{c} \times \\ \downarrow \\ 3:2 = :300 \\ \uparrow \\ \times \end{array} & & \begin{array}{c} 300 \div 2 = 150 \\ = 3 \times 150 \\ \underline{\text{約}450\text{ m}} \end{array} \end{array}$ <p>まとめる</p> <p>等しい比を使えば、実際に測定しなくても、長さや高さを求めることができる。</p> <p>比を使って、練習問題を解く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ぼうのかげの長さとおうの高さの比と、木のかげの長さとおうの高さの比が等しいことに気付かせる。 木のかげの長さが、ぼうのかげの長さの4倍になっていることを確かめて、木の高さを求めさせる。 <p>比の性質を活用して、計算で正しく求めることができる。 (表現・処理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 等しい比を等号で結ぶことができるように、本時の問題と同じように考えさせる。 2つの比を等号で結ぶとき、前項と後項のどちらがになるのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室環境 普通教室 視聴覚機器 コンピュータ1台 プロジェクター 簡易スクリーン 自作ソフト (powerpoint)
<p>授業の成果と今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> かげができる場面を動画を用いて提示をしたことで、問題の把握が確実にできた。 導入の場面だけでなく、練習問題の場面において、自力解決が困難な児童に対して再度提示したことで解決の見通しを持たせることができた。 	

